

2018年12月

オリンピック・パラリンピック教育の教育的効果について ～小学校における体育の授業への興味・関心を中心に～

経営学部 経営学科 新井ゼミ
B5R11046 北澤捷人

【卒業論文概要】

「オリンピック・パラリンピック教育」とはオリンピックの理念(オリンピズム)、パラリンピックの理念について学ぶとともに、オリンピック・パラリンピックの価値を体験的に教えていこうとする教育的活動のことである。

「オリンピック・パラリンピック教育」を通じて、子どもから大人まで、国民一人一人がスポーツの価値ならびにオリンピック・パラリンピックの意義に触れることは、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けた全国的な機運の醸成のみならず、それ以降の東京大会の有形・無形のレガシー創出に向けてきわめて重要な取り組みとなる。

本論文の目的は、「オリンピック・パラリンピック教育」を実際の学校現場で行った際にどのような教育的効果があるのかをアンケートを用いて体育の授業への興味・関心を中心に興味・関心の高低を明らかにすることである。

千葉県のA小学校はオリンピック・パラリンピック教育の推進校となっている。このA小学校で4月時点における児童の体育の授業への興味・関心を調査した。その結果、約8割5分の児童が体育に高い興味・関心を持っていることが分かった。次にA小学校で実際に行った取り組みを聞き、その結果、4月時点よりどの程度、児童の興味・関心が高くなったのかを調査した。同時に先生方にも、どのように行う体育の授業の内容を決めているのか調査・分析し、先生方から見て児童にどのような変化はあったのか、若しくはなかったのかなどを調査した。

本稿では、児童の視点として「オリンピック・パラリンピック教育の推進校として、取り組んでいる学校のため、児童の体育の授業への興味・関心は高まる」と仮説を立てた。さらに、先生方の視点として、「業務内容が増え教員の負担は高まる」と仮説を立てた。

調査・分析の結果、「オリンピック・パラリンピック教育」により児童の体育の授業への興味・関心は高まっていた。また、学校にはいくつかの取り組みが千葉県教育委員会から、パンフレットとして届き、その中から学年の実態に合ったものを選択して取り組んでいることが分かった。一方、先生方の視点としての負担は講師を呼んで行うことがほとんどのため外部と連絡を取り日程を決める程度で、そこまでの負担はないということが判明した。

今後に向けての課題としては、「現在オリンピック・パラリンピック教育」を行っている学校現場に限られているため、この取り組みを各県の教育委員会に報告し、各県の教育委員会が全国各地に普及させていき質を高めていくことが喫緊の課題となるので、その解決のための方策を提示したい。